



第108号 《春》



会長あいさつ

66回生 茶園 美香



昭和45年以來の寒波が日本列島を覆い、例年のない厳しい寒さが続いています。豪雪の地域の皆様にはご苦労されていることと思います。お見舞い申し上げます。明治元年から150年に当たる平成30年の新しい年、会員の皆様が健やかな一年を過ごされますように願っております。

〈慶應看護100年を祝い、縦と横の絆を深めましょう!〉

今年は皆様お待ちに待っておられる慶應看護100年の年になりました。

1918年(大正7)に芝白金三光町養生園に医学部附属看護婦養成として仮養成所が設置され、慶應義塾大学での看護教育が始まりました。その後、厚生女子学院、看護短期大学、看護医療大学と発展して、今年、慶應看護100年目を迎えることができました。現在、紅梅会員は8241名(2017年3月卒まで)です。ご健在で過ごされている厚生女子学院の21回生(1940年3月卒)の会員から、看護医療学部を2017年3月に卒業した会員までの幅広い年齢構成になっています。また、看護医療学部1回生(2004年度卒)からは男性会員も加わり、現在では116名(2017年11月)になりました。会員の方々の活躍の場は、病院勤務、在宅療養支援、都道府県・市町村・企業保健師、看護教育に関わる会員、また最近では、医療に関連した起業をする会員や一般企業で活躍する会員、衆議院議員(2期目)になった会員、国際的活動をしている会員など多様化しています。会員の皆様は時代の変化を読み取り、新しい活動の場を創造されています。会員の皆様が今後ますます活躍されることを期待しております。

来る2018年5月12日(土)は、慶應看護100年記念式典ならびに祝賀会、ホームカミングデイが開催されます(詳細は同封のチラシをご覧ください)。慶應看護100年という大きな節目に立ち会えることに感謝し、「これまでの慶應看護100年」をふり振り返り、「未来に向けての慶應看護100年」への新しい門出を祝福しましょう。

尚、今年度の紅梅会総会は、慶應看護100年記念式典と同じ日の午前中に開催します。長い時間となりますが、紅梅会総会からぜひご参加ください。

皆様、2018年5月12日、信濃町キャンパスでお会いしましょう。楽しみにしております。

〈慶應連合三田会大会に参加し、慶應義塾の同窓生であることを確認しましょう!〉

2017年10月15日に開催された連合三田会大会では、慶應看護100年の歴史に関する写真などを2016年よりも多く展示しました。また、今年は、應義会(三田会所属、慶應義塾大学の応援部卒業生)主催による慶應義塾大学医学部100年に因んだ企画が開催されました。第1部のプログラムは、若林鶴雲師匠(本名 若林誠二、1972年 商学部卒)による「慶應医学部誕生秘話～福澤諭吉と北里柴三郎」の講演でした。その中に慶應義塾における看護教育が1898年、養生園において始まったことを入れていただきました。

第2部では、前回の会報で「日吉に集い歌おう～「慶應義塾看護婦の歌」」の呼びかけで集まってくださった会員の皆様とともに「慶應義塾看護婦の歌」を合唱しました。一般の方にもお聞かせするよい機会となりました。連合三田会は、全塾の卒業生が集まる大きな同窓会で、慶應看護紅梅会も加入しています。今後は紅梅会会員の皆様にも、ぜひ参加していただき、紅梅会が慶應の同窓会であり、紅梅会会員一人一人が会員であることを確認していただきたいと考えております。会員の皆様、2018年度の連合三田会大会にも(10月15日予定)ぜひ、ご参加ください。これまでお願いしてきた「慶應義塾大学病院新棟建設事業募金」の募集期間は、今年3月31日までです。先日の募金事業戦略会議では、寄付累計100万円以上の場合、新病院棟(1号館)に寄付者のご芳名を銘板に記し顕彰させていただくことになりました。引き続きご協力をお願いいたします。

春号の 主な内容

◆ 紅梅会総会のご案内	2	◆ 慶應病院で活躍する専門領域看護師	7
◆ 慶應看護100年式典のご案内	3	◆ 同窓会報告	7
◆ 看護医療学部だより	4	◆ 連合三田会の報告	8
◆ 慶應義塾大学病院のトピックス	5	◆ 紅梅会事務局より	8
◆ 学部生の活動	6		
◆ 活躍する同窓生	6		



2018年度 紅梅会総会のご案内

準備委員長 84回生 江河 都美

2018年度 第75回 総会の開催のご案内

平素は、紅梅会活動に格別のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。寒波の厳しい今日この頃ですが、会員各位にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

つきましては、標記の件について、下記のとおり、平成30年度の紅梅会総会を開催いたします。

今年は、慶應看護100年記念式典ならびに祝賀会と同じ日の午前中に紅梅会総会を開催することになりました。そのため、例年では母の日ですが、今年は日程が異なりますのでご注意ください。よろしくお願いいたします。

場所は、信濃町の慶應義塾大学病院です。

午後には慶應看護100年記念式典ならびに祝賀会のほ

か、ホームカミング企画が開催されます。厚生女子学院、看護短期大学、看護医療学部の卒業生の方々および在校生とで交流ができるような企画を準備しております。ぜひご参加いただき、時代の流れを懐かしむと共に、未来の看護師へ、次の100年に繋げていけるような交流ができればと思っております。

ご多忙中とは存じますが、皆様ふるってご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。

なお、出欠席のお返事は、同封のはがきで3月23日(金)までをお願いいたします。また、入金と同封の振込用紙で4月10日(火)までをお願いいたします。

皆様にお会いできることを楽しみにしております。

記

日時 平成30年5月12日(土)

午前10時30分開会～午前11時30分閉会(午前10時会場)

場所 慶應義塾大学病院 2号館11階 中会議室

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35番地

お問い合わせ先 TEL・FAX 03-3341-8116

(紅梅会事務局:月曜・金曜の13時～17時)

会費 2,000円(軽食:八竹の茶巾寿司をご用意します。)

—プログラム—

1. 開会の言葉・黙祷 (10時30分)
2. 会長挨拶
3. 会員代表挨拶
4. 役委員会報告
5. 審議事項
6. 質疑応答
7. 新旧役員紹介・挨拶
8. 閉会 (11時30分)

—申し込みについてのご注意—

※付き添いの方が参加される場合や、お食事の追加のご用命は、同封のはがきの通信欄への記載と入金をお願いいたします。

※式典当日は慶應義塾大学病院営業日になります。駐車場は外来患者さま優先となりますので、公共交通機関をご利用ください。



「慶應看護100年」を迎えるにあたり

看護医療学部長 小松 浩子

「慶應看護100年」を迎えるにあたり

慶應義塾における看護教育は、来年、2018年には100年という大きな節目を迎えます。

初代医学部長 北里柴三郎による、「病院の良否を左右するものの一つは、看護婦である」という卓見のもと、慶應義塾の看護教育は、1918(大正6)年に始まり、「看護婦養成所」「各種学校」「専修学校」「看護短期大学」という変遷を経て、21世紀初頭に、「看護医療学部」へと発展し、100年間の歩みを続けてきました。これまでの看護教育は、「独立自尊」、「気品の泉源、知徳の模範」という福澤先生の教えに導かれ発展を遂げて参りました。

慶應看護の新たなステージを迎える今、われわれを取り巻く環境や社会は、大きな転換期を迎えています。環境、社会の激変は、世界の繁栄と安定に不確実性や危機感をもたらしています。この危機的な状況を、逆に大きなチャンスをもたらすパラダイムシフトと捉え、長期的な視点に基づく変革を導くことのできる「看護医療の先導者」の育成が求められています。

慶應看護100年記念事業は、新時代の「看護医療の先導者」に対し、メッセージを託す大切な機会です。「歴史の中に、未来が見える」「過去と未来との対話」をキーワードに、慶應のよき伝統、文化を重んじ、さらに次の時代への飛躍につながる慶應看護の姿、学部の発展のあり方について、教員、卒業生、学生が語り合い、「かたち」にすることができるよう、事業を推進したいと思っています。

具体的には、次の事業を推進しています。

- ①看護ベストプラクティス研究・教育基盤強化をすすめる。
- ②慶應看護100年史の編纂・発行:慶應看護100年史編纂を編纂方針に基づき、編纂作業をすすめ2018年3月の「慶應看護100年史」発刊をめざす。
- ③アーカイブ事業(慶應看護史料保存、展示):慶應看護の歩みを伝える文献や資料を広く収集し、資料目録を作成して研究活用ができるよう検索・公開システムを検討する。収集資料は整理・修復の後、保存方法を検討し保管。資料価値を検討し、デジタル化をすすめる。
- ④慶應看護100年記念講演会 第2回「慶應看護のいま、これから」を開催する。
日時:2017年10月21日(土)
場所:慶應義塾大学三田キャンパス 西校舎
中谷比呂樹 君 「グローバル・ヘルスの新たな地平」
永谷 紫織 君 「共に学び、歩む 一協力隊としての活動」
藤屋 リカ 君 「誰一人取り残さない世界を目指して」
- ⑤慶應看護100年記念式典および祝賀会、ホームカミングを実施する。
記念式典および祝賀会、ホームカミングデイ:
2018年5月12日(土)午後の予定
場所:慶應義塾大学病院大会議室、北里講堂 など
学部HP、紅梅会HPおよび会報を通じてご案内致します。
- ⑥記念事業の一環として、看護医療学部と看護部との人事交流による教育研究事業を計画・推進する。
- ⑦全塾で取り組んでいるFuture Learnの制作に参画する。



「慶應看護100年」のロゴに示すように、めざすは、「KEIO Nursing 100 Leading the Future」です。さまざまな事業に積極的に参画頂き、慶應看護の未来について大いに語り、ともに発展に向けて歩みを進めて頂きますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

Mayo Clinicでの実習を終えて

看護医療学部の魅力の一つは、海外研修プログラムが充実していることと言えるでしょう。実際、多くの学生が、本学部への入学を決めた大きな理由の一つに、海外研修科目の履修を夢に見て、と話してくれます。

本学の現行カリキュラムでは、米国での「臨床看護実践(海外)」、英国での「世界の医療・保健制度Ⅱ(海外研修)」、そして医療系3学部が合同で開講しているラオスでの「プライマリヘルスケアと国際保健Ⅱ(海外研修)」の3つの選択科目が設置されています。また2016年度には国際交流委員会が企画した韓国・中国・英国の看護学生を招いた短期留学プログラムが開始され、本学を含め4つの国の看護学生たちが慶應義塾大学病院、訪問看護ステーションでの実習を行いました。さらに、塾内のサークルや自主的な海外活動に対して、「青田与志子記念慶應義塾大学看護医療学部教育研究奨励基金」の助成を受けることができ、毎年30～40名の学生が、夏季休暇等を利用して海外研修に赴いています。

私は、2016～2017年度の「臨床看護実践(海外)」の科目責任者として、ミネソタ州ロチェスター市にあるMayo Clinicに、それぞれ12名、10名の学生たちと行ってきました。今回は、この米国での実習について報告します。

Mayo Clinicと看護医療学部とのつながりは、1998年の短期大学時代に遡り、2017年までに約200名の学生と教員が渡米しています。Mayo Clinicは全米No.1の評価を受けており、さらに患者や看護師を磁石のように引きつけるマグネット・ホスピタルとして認定されています。世界中から多くの看護師たちが研修に訪れていますが、看護学生として実習している大学は、日本では本学を含めて2校のみであり、大変貴重な機会をいただいています。

約2週間の実習のなかで、学生たちは、Mayo Clinicで実践されている医療や看護を自分の目で見て、患者や家族の声を直接聴き、こうした体験的な学習を通して、改めて日

本の医療制度や看護実践について考えます。そしてMayo Clinicの規模や充実した設備、最先端の医療技術などハード面を含め、提供されている医療や看護の素晴らしさに感嘆します。同時に看護実践の基盤となる高度な知識とスキル、ケアリングの心をもって患者と関わることは、国を超えて共通する重要な要素であることを学んできます。このような体験は、学生が卒業後のキャリアプランに思いを巡らし、将来的に海外で看護実践するために、更なる学びを深めていく動機付けとなっているようです。さらに2017年度からは、同じくミネソタ州にあるWinona State University看護学部とのパートナーシップのもとでの実習がはじまりました。大学での講義や演習への参加、そしてMayo Clinicで行われる臨地実習に同行し、米国の看護教育を直接体験することができました。こうした機会も、学生の学習意欲を高め、国際的な活動への関心を高める良い機会となっているようです。

また毎年、秋に来日されるMayo Clinicのナースを信濃町キャンパスに招き、講演会を開催しています。こうした機会を通して、今後もつながりを大切にし、学生にとって実りある実習が継続できる環境づくりをしていきたいと思います。



慶應義塾赤倉山荘 www.sanshikai.jp/akakura/index.html

赤倉山荘に泊ってみませんか？

雄大な自然、豊富な湯量を誇る温泉、数多くのスポーツ施設に囲まれた慶應義塾赤倉山荘には、美食・温泉はもちろんのことゴルフ、スキー、テニス、トレッキングなど季節ごとの楽しみ方があります。合宿・研修会はもちろん、ご家族やお友達と赤倉山荘へ。塾関係者のご利用をお待ちしています。

お申し込み・お問い合わせ
赤倉山荘
電話：0255-87-3900 FAX：0255-87-3905
e-mail：ak-ko@hyper.ocn.ne.jp

赤倉山荘管理事務室(三四会内)
電話：03-3359-0227 FAX：03-3358-0664
e-mail：info@sanshikai.jp

1. 日本病院機能評価機構の「認定証」が届きました

慶應義塾大学病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価3rd Gを受審し11月10日付で認定されました。

特定機能病院、さらには臨床研究中核拠点病院としては、第三者による病院機能の評価を受けることは必須であり、長年の課題でした。看護師長(病院機能評価・新病院棟建設関連担当 山澤美樹師長、渡邊珠子師長、八島朋子師長、宗廣妙子師長、水野谷悦子師長、藤本純子師長と、ケアプロセスを担当した2号館9S病棟 近藤咲子師長、2号館7N病棟 西平万知子師長、2号館10S病棟 関美恵子師長、1号館4E病棟 田村雅子師長)がコアメンバーとなり病院機能の課題改善活動を推進しました。この受審までの過程は、多職

病院機能評価受審委員会
推進リーダー 78回生 鎮目 美代子

種間での交流(コミュニケーション)の機会を多くさせ、病院全体がチームとして成長する過程でもありました。

今回、病院機能評価認定という大きな課題を達成しましたが、この課題改善活動を維持し、新病院棟においてもPDCAサイクルを回し続けることが今後の課題です。



病院機能評価受審委員会のメンバー(1列目右端が筆者)

2. 新病院棟1号館開設に向けた看護管理体制の変更について

看護部長 松田 美紀子

念願であった新病棟開設がいよいよ間近となりました。開設に先立ち看護部では、2016年11月から安全な治療・検査ができるように看護管理体制を変更して準備を進めてまいりました。以下に、主な取り組みを紹介します。

1) HCUの統合にむけた取り組み

村田輝乃(87回生) 加藤恵里子(87回生)

当院では、2016年度まで三カ所(GHCU、1-3HCU、7NHCU)にHCU機能が分散していました。そのため、それぞれにHCU運用取り決めがあり、管理体制も異なっていました。新病院棟ではHCUは1フロア26床となります。4階から5階はICUやHCU、手術センターをはじめとした特殊治療部門の機能が集約化され、より一層円滑な連携強化が期待されています。そこで、機能面も高め、安全な移転ができるよう2017年度より準備を開始しました。

まず7NHCUを閉鎖し1-3HCUを20床へ変更し、GHCUも合わせて一人の師長が管理する体制へ看護管理体制を変更しました。次に、GICU、7NHCU看護師の計画的な異動を行いながら職場環境を整えてきました。この1年間で1-3HCU看護師のクリティカル領域の実践力は着実に向上しています。HCU医師の管理体制や患者フロー等業務の標準化も統一してきました。移転後も安全な治療の提供とクリティカル領域の人材育成を目指していきます。

2) 手術センター、内視鏡センター、血管造影室の取り組み

林明美(87回相当) 永留利恵(短4回生) 桐沢千里(89回生)

新病院棟移転後の手術室拡大に向け、2017年4月より救急外来と手術センター、内視鏡センター、血管造影室を2名の看護師長で管理する体制を開始しました。ねらいは「安全性」「経済性」「効率性」の向上です。夜間緊急で実施される血管造影室、内視鏡センターでの侵襲の高い治療に対して、救急部外来-手術室-血管造影室-内視鏡センターが連動した安全な業務フローを運用するために、それぞれの実践経験が豊富な主任3名を配置しました。具体的には、治療、検査室運用の一元管理に向けたシステム整備、業務整理等、多職種とも連携し業務の標準化に取り組んでいます。また、人材育成の視点でも体制整備を進めるため、3部署間での副主任のローテーションを行いました。今後は主任・副主任が核となり部署間連携を行いながら、看護師がキャリアを積める場となるよう、人材育成計画を立案する予定です。

更に2017年11月からは看護師長を3名配置とし、滅菌資材管理と運用の検討を図るために活動を開始します。



写真左より林明美師長、永留利恵師長、桐沢千里師長

3. 新病院棟(1号館)の見学会が行われました

86回生 山澤 美樹

2017年12月10日(日)に、病院で管理職を務められて退職された方を対象に、1号館の外来、病棟、手術室の見学会を行いました。当日は元看護師長6名にもご参加頂き、見学後懇親会も行われました。2018年4月21日(土)に竣工式、5月7日(月)1号館グランドオープン予定で、移転後の5月12日(土)には、院内で紅梅会総会を開催する予定です。



写真左) 新病院棟コンセプトの外来フロア「フォレスト」にて



右) 病院長とラウンジにて

学部の活動

「春風吹いてまた生ず」（野火烧不尽 春风吹又生）

学14回生 晏 磊(エン・ライ)

私は、出身が中国の牡丹江という町で、冬にはマイナス40度になることも珍しくありません。

初めて日本に来てから10年以上が経ちました。幼いころから母に代わって私を育ててくれた祖母を中国の病院で看取った時の体験から、日本の先進的な医療と思いやりの心に溢れた看護を学ぶことを決心しました。

看護医療学部の勉強の中で、実習は特に印象深い学びでした。終末期看護、精神看護、在宅看護実習などを通じて、患者さん一人一人の人生に向き合うことで私自身成長することができました。3年生の秋の英国研修も強く思い出に残っています。サフォーク大学、ナイチンゲール博物館、ロイヤル・オペラハウス…、私は今まで見たことのない文化と価値観に接し、より広い視野で世界を見ることの大切さを知ることができました。また、ボランティア活動として、「足湯ひよこ隊」という東日本大震災の際発足したサークルにも参加していました。「クラブハウス・インターナショナル」という精神障がい者の社会復帰のためのNPOの国際会議では、言語ボランティアの活動も行いました。

100年の歴史の中で、純粋な外国人の学生は初めてかもしれない、入学時にそう伺い、とても緊張しました。日本語で専門分野を学ぶということは想像以上に大変でした。そんな私を親身の指導で支えてくださった先生方、どんな相談にも快く応えてくれ、手伝ってくれた先輩や友だちに心から感謝しています。

ある国立医療機関の内定もいただき、今は国家試験に向けて一日中勉強の日々です。4年間の集大成として、春には笑顔で友だちと一緒に卒業したいと思います。



活躍する同窓生

新卒訪問看護師を当たり前キャリアへ!

(看護師・保健師) 学9回生 小瀬 文彰

「新卒訪問看護師のキャリアを当たり前にする。」

2013年4月、私はケアプロ訪問看護ステーション東京に就職し新卒訪問看護師としてのチャレンジが始まりました。

私がこの志を持ったのは大学4年生の時でした。当時、訪問看護師の不足により2020年に看取り難民が30万人に至る深刻な状況であることを知りました。一方で調べてみると、看護学生の19.6%は「いずれ訪問看護に就職したい」と回答しているデータもありました。矛盾を感じ同期の学生に「訪問看護師にならないのか」と聞いて回ったところ、返事はみな“No!”でした。理由は①病院での経験がいるだろう、②前例がない、③雇ってくれる事業所も知らないというものでした。互いにニーズがありながら前例の有無やイメージによって大きな障壁が生じている状況に私は強く課題意識を感じ、これがきっかけとなり新卒訪問看護師の道を歩み始めました。

入職後、まだ前例のないキャリアのため社外の方から「訪問看護なんて今すぐ辞めなさい」と言われることもありました。しかし実践を通して分かったことは、「新卒に訪問看護ができるか否か」ではなく、「新卒から訪問看護師として成長・育成していく視点が必要」ということです。そのため会社では、『ケア

プロ式新卒新人訪問看護師教育プログラム』の開発・出版や、「きらきら訪問ナース研究会」での調査・セミナー実施、厚生労働省の研究協力などに取り組んでいます。また私個人としては、全国初の当事者団体「全国新卒訪問看護師の会」を設立し活動しています。

2013年に新卒訪問看護師になったのは恐らく全国で私のみでしたが、2017年は全国で新たに50人がチャレンジしており、急激にそのキャリアが増加しています。まだ今後の発展には課題も多くありますが、「新卒訪問看護師が当たり前の業界の創出」に向けて貢献していきたいと思っています。



慶應病院で活躍する専門領域看護師

急性・重症患者看護専門看護師として

学1回生 高橋 知彦

私は、脳神経や脊髄疾患の周術期看護、残存機能を最大限に生かす高次脳機能障害の看護、急変時対応の看護など、急性期から慢性期まで幅広い専門的知識を求められる病棟で臨床をスタートさせました。ある夜勤で術後の異常を発見し、すぐに再手術を受けたことで後遺症を残さず退院された患者さんの看護を経験し、自分の判断が患者さんのQOLに直結する責任とやりがいを感じました。さらに知識や技術を高めたいという思いから、集中治療室(ICU)に異動しました。そして専門看護師(CNS)を目指すため大学院に進学し、修了後はICUに再就職しました。

ICUでは外科・内科、昼夜問わず、重篤な患者さんに治療・看護を提供します。患者さんや家族は生命の危機的状況の中でも懸命に生きようとしています。私たちはその生きる力を最大限に引き出すべく、綿密なモニタリングを行いながらリハビリテーションや口腔ケア、せん妄の予防から早期離脱に向けたケア、苦痛を最小限にするケア、家族ケアを丁寧に実践していま

す。治療が優先されるICUですが、重症化の回避や回復過程の軌道に乗せること、何より安全安楽な看護を提供する使命を常に持ち、多職種と円滑に連携・調整を行いチーム医療を推進しつつ、ICU看護の成果を発信できるよう努めています。

近年の高齢化や医療技術の進歩に伴い、患者さんの回復過程は複雑化し、医療依存度が高いままICUを退室するケースも多いため、病棟でもクリティカルなケアが継続できるように後方支援を開始しています。また、専門領域看護師や病棟と協働し、根拠に基づくせん妄ケアを院内全体で提供できる体制の構築にも取り組んでおります。CNSとしても父親としても悪戦苦闘な毎日ですが、患者さんや家族に最良の看護が提供できるよう精進していきたいと思っております。



同窓会報告

「いつわ会」の集い

58回生 若林 真智子

私たちは、厚生女子学院58回生です。2クラスで62名のクラスメートがいました。58回の5と8から「いつわ会」になったと聞かれています。

卒業まもなくから、有志の皆さんがクラス会を開催し、担任の伊藤先生、菊地先生、そして学生寮舎監の小山先生にも、何度か参加していただいたそうです。

最初は隔年の開催でしたが10年前から毎年開催となり、いろいろな地方(松山、信州、伊勢志摩等)のクラスメートが幹事を担当し、観光を兼ねた楽しい集いを重ねて来ています。実は、私は今までに2回しか参加したことが無く、15年前に越後湯沢で開催された時以来でした。それがなぜ、今回の幹事を受けたかと申しますと、2年前の熊本地震の後に、熊本市、益城町にいるクラスメートが無事だったと電話をいただいたことです。

久しぶりのクラスメートと話が弾み、クラス会にすっかりご無沙汰していることなどを話すうちに、「北陸新幹線も開通したことだし、是非わが町に」とお誘いをしていました。

クラス会を開いた4月中旬は富山県のとても美しい時期です。雪をいただいた立山連邦、蟹気楼、ほたるいか、白エビの季節で、天神山ガーデンの花桃も満開でした。

今回、この原稿の依頼を受け、今までの情報を得ようと何人かのクラスメートに電話し、楽しい時間をいただきました。

古希を迎え、卒業から半世紀をむかえようとしていますが、同窓に学んだクラスメートのつながりを改めて嬉しく思い、これからも交流を深めていきたいものと思っております。



宮原キッズクリニック
MIYAHARA KIDS CLINIC

小児科 アレルギー科

www.miyahara-kids.jp



埼玉県さいたま市北区宮原町1-13-5 TEL 048-653-9888

10月15日、私は初めて連合三田会大会に参加しました。雨の中、日吉駅の構内から大勢の人で溢れており、「三田会大会って何!?!」と思いながら、キャンパスへと向かいました。

そんな私が今回出向いた理由は、「慶應義塾看護婦の歌」と一緒に歌おう!と声をかけていただいたからです。今年は慶應医学部100周年(来年は看護100年!)ということで、應義会主催で慶應名人会(落語&講談)と慶應義塾名曲コンサートが、慶應医学や看護をテーマに行われました。そのコンサートの中で「慶應義塾看護婦の歌」を應義会演奏隊の演奏の下、紅梅会の皆で歌う機会を頂きました。この歌を歌うのは学生時代以来です。やや元気のいい演奏をバックに歌っていると、戴帽式の事が昨日の事のように蘇ってきました。現在の看護医療学部では歌うことは無いと聞き、「時代の変化」とは思いながらも、少し寂しくも感じた時間でもありました。

もありました。

別会場では紅梅会主催により「慶應看護100年の歩み展示」がありました。これまでの病院・学生たちの写真や、その時々ユニフォームを着たりカちゃん人形が展示され、懐かしさや長い歴史を感じるなど、感慨に浸れる展示となっていました。

現在私は訪問看護師をしています。短大を卒業してから今まで、働く場所は変わってもずっと看護に携わってこれたのは、歴史ある慶應で看護の基礎を学ぶことができたからなのか……と感じます。慶應で学べたことを誇りに思い、その名に恥じぬような看護をしようという気持ちで新たにすることのできた一日となりました。最後に貴重な機会を作ってくださったスタッフの皆様と、三田会大会に誘って下さった先輩方に感謝いたします。

紅梅会事務局より

慶應看護100年記念事業に合わせ今回は会費納入の有無にかかわらず、住所判明者全員に会報をお送りしております。会費の納入をお願いいたしますと共に、住所変更・改姓等を事務局まで郵送・FAX・電話等でご連絡ください。不在の場合は留守番電話にメッセージをお願いします。

平成25年版会員名簿の在庫があります。購入ご希望の方は電話またはFAXで事務局までお申し込みください。 浅田 頼子(68回)

事務局在室時間 月・金曜日 13時~17時
直通電話・FAX 03-3341-8116

紅梅会運営のための寄付を随時受け付けております。

●2017年4月~12月までのご寄付

	匿名希望	1,000円
39回生	立野 敦子 様	10万円
看護医療学部長	小松 浩子 様	5万円
総会時の募金箱		11,449円



2018年後期「特選塾員推薦」受付中

2001年4月から、特選塾員規約の一部変更により、厚生女子学院卒業生も特選塾員となるできるようになり、今までに261名の方が紅梅会推薦により特選塾員とられました。塾員であるということは慶應義塾卒業生のメンバーとして塾員間の交流ができるようになり、多彩なメンバーとの交流もできるようになります。また、慶應義塾の図書館利用証も取得できます。

紅梅会推薦として手続きいたしますので、ご希望の方は「氏名・ふりがな・生年月日・現住所・電話番号・回生または卒業年月・義塾での学歴・義塾以外の学歴・経歴(職歴)・現職」を明記して、紅梅会事務局に郵送またはファックスでお送り下さい(8月31日締め切り)。

今回申込みをされた方は11月末頃の決定通知となります。なお不明なことは紅梅会事務局にお問い合わせください。

計 報

20回生	森	はや(旧姓森)	2015年10月14日
28回生	山田	千慧子(旧姓近喰)	2017年8月25日
29回生、助24回生	馬場	千子	2015年6月1日
31回生	栗本	きん(旧姓金子)	2017年10月12日

2017年12月31日現在

〈紅梅会〉東京都新宿区信濃町35孝養舎内

TEL・FAX 03(3341)8116

URL:<http://keio-koubaikai.la.cocan.jp/>

編集後記

108号も慶應看護に携わる皆様のご協力により、無事発行する事ができました。今号では、来る5月の慶應看護100年に向けたご案内をさせて頂いております。発行にあたり、これまで慶應看護を作り上げてきた先輩方への感謝の気持ちを感じるのと同時に、これからの発展に尽力して参りたいと強く思いました。当日、皆様をお待ちしておりますので、是非ご参加ください。

編集委員長 学3回生 渡邊 開